



田巻源太氏

株式会社 インターセプター  
映像制作部部长



## OS に依存しないストレージの共有化

インターセプター（東京都目黒区）は自社企画の映画作品製作ならびに、映画・PV・ライブ映像などのポストプロダクション業務を行うプロダクションだ。同社は2012年1月、新たなストレージシステムの運用を開始した。その中核をなすのがGB Labs社の「Space」である。同社はこのシステムにより、OSやバージョンに依存しないストレージの共有化を実現。ポストプロ業務全体にわたるプラットフォームの統合と、ワークフローの一層の効率化を図っている。

新たなストレージシステム導入までの経緯について、インターセプター映像制作部部長の田巻源太氏は「2010年まで、社内のシステムはそれぞれのMacに4Gbpsのファイバーチャンネル(以下FC)のストレージがDAS(Direct Attached Storage)として接続されていた。これらのリースアップとスタジオの移転を機に、新たなシステムを導入しようということで検討を始めたのがきっかけだ。」と説明する。

検討を進める中で、ストレージの共有化は優先課題だった。田巻氏は「このストレージには、映像系だけでなく、MAなどとも共有を行いたいと考えていた。しかし、FC接続のSAN(Storage Area Network)は高額。しかも、Mac、Windowsなどの様々なOSと、それぞれのアプリケーションやSANのクライアントソフトウェアが動作保証しているOSのバージョン、更には、それらのバージョンアップ時の移行など考慮しなければならない。あまりに制約を受けるため、他のソリューションを模索していた」と語る。

同社のポストプロダクション環境は、編集兼MA室が1室。そして、楽器収録も行えるナレーションブースと編集やMAの仕込み部屋を兼ねた、多用途な編集室の計2室を運用しており、それぞれMac Proを使用する。また、自社企画作品の作業および受託作業におけるオフライン編集や合成等の作業は、スタッフルームでも数台で作業が行えるようになっており、WindowsやLinuxのクライアントも接続している。



GB Labs Space  
サーバーラックに最適な2U  
ラックマウント

## SAN

複数の PC から同時にアクセスできる共有ストレージの一種。映像制作用としてハイエンドユースの共有ストレージとして広く普及している。使用するには、周辺機器やソフトウェアの設定が別途必要。

## NAS

LAN ケーブルで接続する共有ストレージ。速度性能などは SAN には及ばないものの、簡易に接続できるので、導入や運用のコストを抑えることが出来る。

## Space

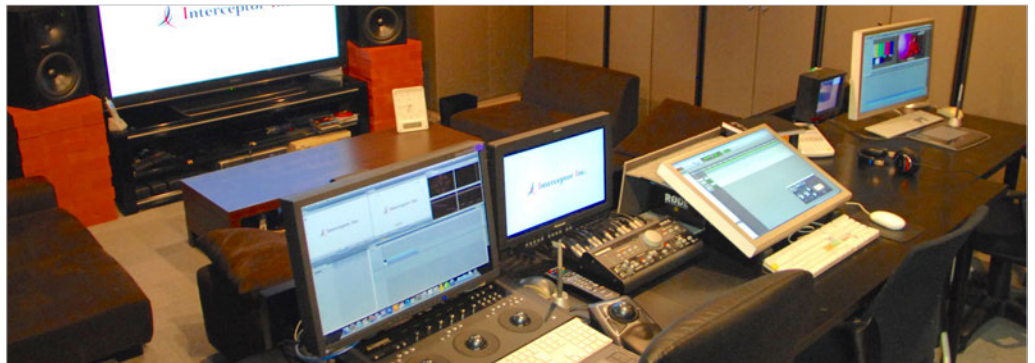
NAS でありながら映像制作用に速度や安定性を最適化、SAN に迫る安定したパフォーマンスを享受できる。

## 業務全体のプラットフォームを統合

新ストレージシステムとして Space を選んだ理由について、田巻氏は「ストレージの共有化を念頭に検討した結果、一昨年前の移転時に FC 接続の DAS から、iSCSI ベースの IP-SAN ストレージへと移行した。しかし、当初から抱えていた各アプリケーションとの互換性の問題などが解決に至らなかった。そこで着目したのが、Space だった」という。

「FC-SAN や IP-SAN では、クライアント PC ごとにライセンスやそれに伴う費用が必要なのに対し、NAS (Network Attached Storage) である Space はそれらが不要。また、OS の種類やバージョンにかかわらず接続でき、共有ストレージとの接続方式がアプリケーションやクライアント PC の制約にならないことが決め手となった」としている。

Space を実際に運用した感想としては、「スピードこそ FC に及ばないが、FireWire 800 よりも速い転送速度を保つため、実用上は DAS と比べても何ら見劣りしない。作業はもっぱら ProRes 422 HQ コーデックの QuickTime ファイルを中心に運用しているが、通常の NAS では困難な、素材やプロジェクト自体を共有ストレージ上に置いたままでの編集が、Space では可能。同時に全クライアントで作業しても全くストレスを感じない。そういった意味では、FC ストレージと比べて生産性は落ちていない」と語る。



## 効率的なポストプロダクション環境の構築

コスト面では「SAN と違って、クライアントにライセンスがいらないだけでなく、Space に GbE (ギガビットイーサネット) のポートが多くあるので、現状は各クライアントからスイッチなどを介さずに直接 Space に接続している。そのため、SAN では必要になる高額な FC スイッチどころか、イーサネットスイッチまでもが不要。オペレーションも簡単で、各 PC で設定して接続するだけなので、管理コストも限りなくゼロになる。運用開始してから、ハードウェアのトラブルもなく、単体だけでなくトータルコストで見ても大変リーズナブルだ」と述べている。

田巻氏は Space の導入により「ディレクターさんなどのお客様が持ち込まれる PC を直接接続できるようになり、データの受け渡しに USB や FireWire の HDD を介する必要がなくなった。外部オペレーターさんに社内で作業いただく際に、PC にインストールしているプラグインの差異などで再作業できない事があったが、そういった場面でも持ち込み PC との協調作業が可能となり、お客様からも好評を頂いている」とその効果を挙げる。

「当社においては、もはや Space のない環境に戻ることは想像すらできない」と、田巻氏は締めくくった。

システム導入：株式会社 メディア・インテグレーション

GB Labs SPACE : [www.ask-media.jp/gb-labs.html](http://www.ask-media.jp/gb-labs.html)

お問い合わせ先

株式会社 **アスク**

102-0074 東京都千代田区九段南4-8-21 山脇ビル11F

Tel : 03-6913-9600 / Fax : 03-6913-9590 / Web : [www.ask-media.jp](http://www.ask-media.jp) / Mail : [info@ask-media.jp](mailto:info@ask-media.jp)